

美空ひばり様

(一九三七〜一九八九)

拜啓 美空ひばり様 安らかにお眠りでしょうか。突然の便りに、戸惑っておられることと思いますが、私は「昭和の歌姫」と呼ばれ、「歌謡界の女王」として偉大な足跡を遺されたひばり様のファンの一入です。

このたび、敬愛するいろんなジャンルの著名人にお手紙を差し上げ、私の思いを伝えたいという企画を立てさせていただいた次第です。その筆頭にひばりさんを選び、ご生前の頃から少しく疑問に思っていることなどの質問をさせていただくとをお許し願います。

平成の世にあつては、「個人情報保護法」なる法律が出来、プライバシーに関する事柄の取扱いが以前に比べて難しくなりました。従つて、お答えになりにくい、あるいは答えたくない事は結構ですが、出来ればご返信賜りたく存じます。

さて、ひばりさんは昭和十二年(一九三九)生まれでいらつしやいますので、ご健在ならば既に七十を過ぎる頃と存じます。お年を召されても、あの七色の歌声は衰えていらつしやらないと思ひますが、もう生でひばりさんの歌が聞けないことが残念でなりません。

横浜で生まれたひばりさんは、本名・加藤和枝。幼い頃から、芸能好きのお父様・加藤増吉さんの影響でしようか、笠置シズ子さんの物まねが大受けし、天才少女と呼ばれました。戦後、コロムビア(現・コロムビアミュージックエンタテイメント(株))から『河童ブギ』『悲しき口笛』『リング追分』などのヒットを次々と飛ばし、昭和四十年(一九六五)に出した『柔』で、日本レコード大賞を受賞するに至つて、歌謡界の女王としての地位を不動のものとされました。生涯のレコード売上は四千万枚に達し、今後もこの記録は破られることが無いでしょう。

雪村いづみ・江利チエミと並んで三人娘として売り出されていたようですが、あ